

理事長挨拶

令和5年1月



理事長 赤羽 悟美

日本薬理学会の2022年は、Covid-19感染拡大の影響を受けながらも、学術集会においては2回の年会と5回の部会を開催し、オンライン形式を活用するとともに対面形式も復活したことにより、たいへんアクティブな学術交流が行われました。英文誌においては、JPSのインパクトファクターが飛躍的に上昇し、薬理学研究の質と情報発信力の更なる向上に向けて大きな励みとなりました。日本薬理学会は、薬理学会会員に活発で刺激的な学術活動の場を提供するべく、今期の活動目標である「Diversity・Integration・Sustainability」の実現に向けた取り組みを進めてまいります。

1. Diversity

- ・日本薬理学会の学術活動を活性化するために、学術団体（日本医学会・日本医学会連合・生物科学学会連合・日本脳科学関連学会連合・日本学術会議等）の活動を通じて他学会との学術交流を推進します。
- ・世界における日本薬理学会の役割を認識し、IUPHAR（International Union of Basic and Clinical Pharmacology）をはじめ世界各国の薬理学会との国際的連携を発展させてまいります。

2. Integration

- ・日本薬理学会の「知的資産」を継承し、将来に向けて大きく発展させるために、デジタル・トランスフォーメーション（DX）を推進し活用いたします。
- ・薬理学会年会および各部会における画期的な学術プログラム企画を支援します。
- ・原著英文誌「Journal of Pharmacological Sciences」から世界に向けた質の高いサイエンスの発信と、総説和文誌「日本薬理学雑誌」から会員に向けた有用な情報の提供を推進します。
- ・産官学の連携を促進するべく、「オープンイノベーション活動」を推進します。
- ・日本薬理学会創立100周年を迎える2027年に向けて、日本薬理学会の未来を見据えた記念事業の企画および準備を進めてまいります。

3. Sustainability

- ・次世代を担う薬理学者と薬理学教育者の育成に注力いたします。
- ・薬理学会会員が学会活動を持続し活躍できるよう支援する取り組みを進めます。
- ・学会活動の持続性を支える財政基盤の安定化と事務局運営体制の整備に取り組みます。

2023年も会員の皆様のご理解と一層のご支援ご協力を賜りますよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。